

勉誠社

中古文学会 会員様対象 特別割引のご案内

全品**20%OFF**

割引クーポンコード: 45befd582f
(期限: ~2025年12月28日)

謹啓

日頃より、弊社をお引き立ていただきまして、誠にありがとうございます。
さて、この度、会員様対象の特別割引セールを行うことになりました。
当リストの新刊・近刊書籍をはじめ、勉誠社タイトル全品が対象となります。
この機会にぜひともご購入をご検討くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白

●ご注文について

- ・弊社ウェブサイトよりご注文を承ります。

<https://bensei.jp>

各種クレジットカード、paypal(クレジットカード・デビットカード)でのご決済が可能です。
ぜひご利用くださいませ。

割引クーポンコード:45befd582f(期限:~2025年12月28日)

こちらの10ケタの英数字を、必ずご入力ください！
未入力の場合、割引が適用されず、定価でのご請求となります。ご了承ください。

- ・メール添付、FAX、電話でもお受けしております。
ご氏名・ご住所・電話番号・公費／私費の区別・公費の場合は必要書類・宛名・日付の有無をお知らせください。
- ・送料
6,000 円（税込）未満の購入 → 送料 600 円
6,000 円（税込）以上の購入 → 送料無料
(※海外への配送に関しては、実費を頂戴します)

***ウェブサイト以外の方法によるご注文の際は、
中古文学会の会員であることをお知らせください。**



●ご連絡先

Mail info@bensei.jp
電話 03-5215-9021
FAX 03-5215-9025

【勉誠社】研究書 近刊・新刊書籍リスト

2024～2025年刊行分								
	書名	著者名	刊行年月	ISBN	定価（税込）	割引価格	注文数	
■事典・総記■								
近刊	江戸時代の図説事典 訓蒙図彙	小林祥次郎 解題	2025/10	30019-9	11000	8,800		
新刊	書物学 第30巻 書物から渋沢敬三を読む	神奈川大学日本常民文化研究所 編	2025/09	30730-3	2200	1,800		
新刊	書物学 第29巻 蔦屋重三郎と日本の出版文化 蔦重手引草	編集部 編	2025/08	30729-7	2200	1,800		
	書物学 第28巻 相国寺一寺宝が伝える歴史と信仰	相国寺承天閣美術館 編	2025/08	30728-0	2200	1,800		
	書物学 第27巻 近代製本の100年―明治・大正・昭和	編集部 編	2025/04	30727-3	2200	1,800		
	書物学 第26巻 古筆見の仕事―真偽の先にあるもの	編集部 編	2025/02	30726-6	2200	1,800		
	書物学 第25巻 古典籍の文献学―鶴見大学図書館の蒐書を巡る	編集部 編	2024/04	30725-9	2200	1,800		
	妖怪ブックガイド600	氷厘亭氷泉・式水下流 著	2024/07	30017-5	3080	2,500		
	世界の絵本・作家 総覧	O.L.V.（おおぶ文化交流の杜図書館ボランティアグループ）・おおぶ文化交流の杜図書館 編	2024/06	30013-7	22000	17,600		
	アーカイブズ学入門	国文学研究資料館 編	2024/07	30012-0	3080	2,500		
■歴史・文化財・美術史・思想史■								
近刊	高山寺本 明患上人夢記訳注	奥田 勲・平野多恵・前川健一・立木宏哉・小宮俊海・野呂 靖 編	2025/10	31022-8	8,800	7,000		
近刊	新装版 書籍流通史料論 序説	鈴木俊幸 著	2025/10	32077-7	8,800	7,000		
近刊	宋代中国都市の形態と構造 新装版	伊原弘 著	2025/10	32079-1	4,950	4,000		
近刊	新装版 近世蔵書文化論 地域〈知〉の形成と社会	工藤航平 著	2025/09	32075-3	8,800	7,000		
近刊	中世地下文書論の方法と実践	春田直紀 編	2025/10	32076-0	9,900	7,900		
	會澤正志齋と水戸学の国体論	藤野博 著	2025/09	32073-9	3,300	2,600		
	醍醐寺の法流と史料	佐藤亜莉華 著	2025/07	31023-5	8,800	7,000		
	古代木簡の世界―地方木簡がひらく古代史	森公章 著	2025/07	32066-1	3,080	2,500		
	壮（チワン）族の歴史と文化	田畑博子 編	2025/07	33007-3	6,600	5,300		
	外から見た江戸時代の書籍文化―写本・版本・在外書籍	ピーター・コーニツキー 著	2025/07	32067-8	9,900	7,900		
	朝鮮の国家形成と東アジア	武田幸男 著	2025/07	32070-8	13,200	10,600		
	和様と唐様の建築史学史	野村俊一 編著	2025/07	35004-0	8,800	7,000		
	徳川美術館蔵「遊楽図屏風（相応寺屏風）」は語る―将軍家光の政治と「邸内遊楽図」の誕生	黒田日出男 著	2025/07	32068-5	4,180	3,300		
	古文書研究 第99号	日本古文書学会 編	2024/06	32409-6	4,180	3,300		
	社寺建築を知るための用語集―日本の歴史的建築を考える	濱島正士 著／文化財建造物保存技術協会 編集協力	2024/06	35003-3	4,180	3,300		
	宋代士大夫官僚の基層社会と構造	伊原弘 著	2025/05	32049-4	13,200	10,600		
	増補改訂版 道教美術の可能性	齋藤龍一・鈴木健郎・土屋昌明 編	2025/04	37019-2	3,300	2,600		
	中国の女性演劇―越劇とジェンダー	中山文 著	2025/03	37018-5	8,250	6,600		
	新装版 武蔵武士を歩く―重忠・直実のふるさと 埼玉の史跡	北条氏研究会 編	2025/03	32062-3	2,970	2,400		
	武蔵武士を巡る―東京・神奈川の史跡と伝説	北条氏研究会 編	2025/03	32055-5	4,180	3,300		
	茶の湯の文化史	五味文彦 著	2025/03	32060-9	2,640	2,100		
	貸本問屋と貸本文化―娯楽的書籍の出版・流通・受容	松永瑠成 著	2025/03	32063-0	11,000	8,800		
	道教文化と日本―陰陽道・神道・修験道	日本道教学会 編	2025/03	31020-4	4,180	3,300		
	江戸庶民の読書と学び 増補改訂版	長友千代治 著	2025/02	32065-4	5,280	4,200		
	古文書研究 第98号	日本古文書学会 編	2025/01	32408-9	4,180	3,300		
	地方史誌から世界を読む―地方史誌から世界を読む	小二田章 編	2025/01	32064-7	8,800	7,000		
	帝鑑図と帝鑑図説―日本における勸戒画の受容	小助川元太・薬師寺君子・野田麻美・水野裕史 編	2024/11	37017-8	16,500	13,200		
	武蔵武士を巡る―東京・神奈川の史跡と伝説	北条氏研究会 編	2024/12	32055-5	4,180	3,300		
	近世日本邪正論―江戸時代の秩序維持とキリシタン・隠れ／隠し念仏	大橋幸泰 著	2024/11	32058-6	11,000	8,800		
	看聞日記とその時代―好奇心旺盛な皇族・伏見宮貞成が語る中世社会	藺部寿樹 著	2024/10	32059-3	4,620	3,700		
	荘園制再編と中世日本	小川弘和 著	2024/10	32057-9	8,800	7,000		
	源氏絵研究の最前線	稲本万里子 編著	2024/10	37016-1	14,300	11,400		
	織田信長文書の世界―永青文庫 珠玉の六〇通	公益財団法人永青文庫・熊本大学 永青文庫研究センター 編	2024/09	32054-8	3,080	2,500		
	増補改訂版 東インド会社とアジアの海賊	東洋文庫・斯波義信・平野健一郎・羽田正 監修／	2024/09	32056-2	3,520	2,800		
	醍醐寺文化財研究所研究紀要 第24号	醍醐寺文化財研究所 編	2024/09	31302-1	2,750	2,200		
	都市鎌倉の展開と鶴岡八幡宮の社人集団	佐藤博信 著	2024/09	32050-0	8,800	7,000		
	日本中世史論集	森茂暁 著	2024/09	32053-1	13200	10,600		
	料理の日本史	五味文彦 著	2024/09	32045-6	2640	2,100		
	ハナシ語りの民俗誌	川島秀一 著	2024/08	33006-6	3520	2,800		
	開かれていた鎖国―入り船と出船	片桐一男 著	2024/08	32046-3	8800	7,000		
	新装版 日本建築の歴史的評価とその保存	山岸常人 著	2024/08	32052-4	18700	15,000		
	教育勅語―少年昭和天皇への進講録	杉浦重剛 著／所功 解説	2024/07	32051-7	1320	1,100		
	広益体 妖怪普及史	伊藤慎吾・氷厘亭氷泉・式水下流・永島大輝・幕張本郷猛・御田鉄・毛利恵太 著	2024/07	32040-1	3,520	2,800		
	古文書研究 第97号	日本古文書学会 編	2024/06	32407-2	4,180	3,300		
	和紙を科学する 製紙技術・繊維分析・文化財修復	大川昭典 著	2024/06	35002-6	4,620	3,700		

	近世長崎渡来人文運史 言語接触と文化交流の諸相	若木太一 著	2024/06	32044-9	14,300	11,400	
	永平廣録 大全―『祖山本 永平廣録』訓読・訳註・補注参究ならびに解題・関連資料集成	大谷哲夫 著	2024/06	31017	71,500	57,200	
	増補改訂版 室町時代の将軍家と天皇家	石原比伊呂 著	2024/05	32047-0	9,900	7,900	
	戦後出版文化史のなかのカストリ雑誌	石川巧 編集代表／ カストリ雑誌編集委員会 編	2024/05	39039-8	3,080	2,500	
	増補改訂版 図像学入門―疑問符で読む日本美術	山本陽子 著	2024/04	37014-7	2640	2,100	
	古文書修復講座―歴史資料の継承のために	神奈川大学日本常民文化研究所 監修／ 関口博巨 編	2024/03	32035-7	4180	3,300	
	三井大坂両替店の顧客信用情報―享保一七年から明治二年まで	萬代悠 編	2024/03	32042-5	16500	13,200	
	「見える」ものや「見えない」ものをあらわす ―東アジアの思想・文物・藝術	外村中・稲本泰生 編	2024/03	37012-3	15400	12,300	
	湖北省留日学生と明治日本	王鼎 著	2024/03	32043-2	7700	6,200	
	器と信仰―東アジアの舍利莊嚴をめぐる美術史・考古学からのアプ	加島勝 編	2024/03	32041-8	16500	13,200	
	彰義隊士の手紙―続『新彰義隊戦史』	大藏八郎 著	2024/03	32036-4	22000	17,600	
	日本近世史入門―ようこそ研究の世界へ！【重版出来！】	上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美 編	2024/02	32034-0	4,180	3,300	
	コレクションと歴史意識 ―十九世紀日本のメディア受容と「好古家」のまなざし	古畑侑亮 著	2024/02	32038-8	11,000	8,800	
	近世後期の海防と社会変容	清水詩織 著	2024/02	32037-1	11,000	8,800	
	朝鮮時代ソウル都市史	高東煥 著／野崎充彦・金子祐樹 訳	2024/02	32039-5	9900	7,900	
	泰山諸神の信仰の展開―東岳大帝から碧霞元君へ	二ノ宮聡 著	2024/01	31018-1	8,800	7,000	
■ 古典文学・文学史 ■							
近刊	杜甫詩論考	後藤秋正 著	2025/10	39054-1	11,000	8,800	
近刊	新装版 源氏物語の話し声と表現世界	陣野英則 著	2025/10	39055-8	11,000	8,800	
近刊	新装版 源氏物語論 女房・書かれた言葉・引用	陣野英則 著	2025/10	39056-5	7,700	6,200	
新刊	近松・西鶴・芭蕉と出版文化	長友千代治 著	2025/08	32072-2	8,800	7,000	
品切	極上の仮名 王朝貴族の教養と美意識	五島美術館 編	2025/06	37020-8	2,750	2,200	
	幽憶 新フランス詩華集―ルネサンスから現代まで	竹本忠雄 著	2025/07	39053-4	6,600	5,300	
	日本中世の宗教世界	阿部泰郎 監修／佐藤愛弓・牧野敦司 編	2025/05	31021-1	9,350	7,500	
	中国の名作をどう読むか―真の主題を見極める	下定雅弘 著	2025/05	39048-0	6,600	5,300	
	杜甫研究年報 第八号	日本杜甫学会 編	2025/04	39448-8	2,200	1,800	
	〈絵語り〉の日本中世	井上泰 著	2025/03	37013-0	9,900	7,900	
	和漢韻文文学の諸相	村上哲見 著／浅見洋二・松尾肇子 編	2025/03	39049-7	13,200	10,600	
	本歌取り表現論考	小山順子 著	2025/03	39050-3	12,100	9,700	
	水門 第三十二号	水門の会 編	2025/03	32463-8	3,850	3,100	
	孝謙天皇・称徳天皇御伝	米田達郎・米田雄介 編著	2025/01	32061-6	7,150	5,700	
	日本人の読書 新装版―古代・中世の学問を探る	佐藤道生 著	2025/01	39047-3	11,000	8,800	
	新装版 数と易の中国思想史―術数学とは何か	川原秀城 著	2024/12	81045-2	7,700	6,200	
	正訳 源氏物語 本文対照 第一冊（オンデマンド版） 桐壺／帚木 ／空蝉／夕顔／若紫	中野幸一 訳	2024/12	89571-8	2,750	2,200	
	増補改訂版 明恵上人夢記 訳注	奥田勲・平野多恵・前川健一 編	2024/11	31019-8	8,800	7,000	
	清少納言伝―中宮定子讃仰と鎮魂の生涯	上原作和 著	2024/11	39046-6	5,940	4,800	
	鎌倉幕府の文学論は成立可能か!?―真名本『曾我物語』テキスト論	神田龍身 著	2024/10	39045-9	4,180	3,300	
	日本人にとって教養とはなにか―〈和〉〈漢〉〈洋〉の文化史	鈴木健一 著	2024/10	39044-2	3,850	3,100	
	日本古典文学と中国の古伝承―物語形成の比較文学的考察	三木雅博 著	2024/09	39042-8	11,000	8,800	
	平安朝詩文論集	後藤昭雄 著	2024/09	39043-5	13,200	10,600	
	新装版 正訳 紫式部日記 本文対照	中野幸一 訳	2024/05	39041-1	2,420	1,900	
	ラテンアメリカ文学の出版文化史 ―作家・出版社・文芸雑誌と国際的文学ネットワークの形成	寺尾隆吉 編著	2024/05	39040-4	6,050	4,800	
	中国古典戯曲演劇論	岡晴夫 著	2024/04	37015-4	16500	13,200	
	球陽外巻 遺老説伝	前村佳幸 校注	2024/04	32048-7	8800	7,000	
	杜甫研究年報 第七号	日本杜甫学会 編	2024/04	39447-1	2200	1,800	
	水門 第三十一号	水門の会 編	2024/03	32462-1	3850	3,100	
	川端康成の曖昧な声―日本語の小説における文体と身体との交点	平井裕香 著	2024/03	39038-1	6,600	5,300	
	本 かたちと文化―古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	国文学研究資料館 編	2024/02	30011-3	3,080	2,500	
	本 かたちと文化（電子版）―古典籍・近代文献の見方・楽しみ方	国文学研究資料館 編	2024/02	70011-1	3080	2,500	
	歴史叙述としての平家物語	塩山貴奈 著	2024/02	39037-4	8800	7,000	
■ 日本語学・言語学 ■							
	日本人は漢文をどう読んだか―直読から訓読へ	湯沢質幸 著	2024/05	38006-1	3520	2,800	
	論究日本近代語 第3集	日本近代語研究会 編	2024/04	38523-3	16500	13,200	
	楷書の秘密―「字様」が発見されるまで	西原一幸 著	2024/02	38005-4	4,180	3,300	
■ 〈アジア遊学〉 ■							
近刊	309 外圧の日本古代文学史	遠藤耕太郎・濱田寛・吉見健夫 編	2025/10	32555-0	3,300	2,600	
新刊	308 鏡としての日本文学―交響する中日古典	張龍妹 編	2025/10	32554-3	3,520	2,800	
新刊	307 空間と環境の古代東アジア世界史 GISと歴史学・考古学の協奏	中村慎一・渡部展也・小林正史・菊澤律子・大川裕子・村松弘一 編著	2025/09	32553-6	3,850	3,100	
新刊	306 建築とオリジナル 創造・継承・解釈	赤澤真理・加藤悠希・米澤貴紀 編	2025/08	32552-9	4,180	3,300	
	305 近現代日本を生きるテキスト遺産―モノ×営為×世界	Edoardo Gerlini・河野貴美子 編	2025/07	32551-2	3,300	2,600	
	304 北欧ロマンとナショナリズム―内村鑑三・開拓・民族主義	中丸禎子・田中琢三 編著	2025/07	32547-5	4,180	3,300	
	303 瓦から探る中世寺院	中世瓦研究会 編	2025/05	32549-9	3,300	2,600	

	302	アク・ベシム遺跡を掘る―よみがえるシルクロードの交易都市	山内和也・齊藤茂雄 編	2025/05	32548-2	3,520	2,800	
	301	描かれた法華経―本法寺蔵「法華経曼荼羅図」の時空	原口志津子 編	2025/03	32547-5	3,300	2,600	
	300	性なる仏教	大谷由香 編	2025/01	32546-8	3,080	2,500	
	299	近代日本の中国学―その光と影	朱琳・渡辺健哉 編著	2024/12	32545-1	3,850	3,100	
	298	無住道暁の拓く鎌倉時代―中世兼学僧の思想と空間	土屋有里子 編	2024/10	32544-4	3,080	2,500	
	297	廃墟の文化史	木下華子・山本聡美・渡邊裕美子 編	2024/10	32543-7	3,300	2,600	
	296	天文文化学の視点―星を軸に文化を語る	松浦清・真貝寿明 編	2024/10	32542-0	3,850	3,100	
	295	蘇州版画―東アジア印刷芸術の革新と東西交流	青木隆幸・板倉聖哲・小林宏光 編	2024/09	32541-3	3,520	2,800	
	294	秀吉の天下統一 ―奥羽再仕置	江田郁夫 編	2024/06	32540-6	3,520	2,800	
	293	彷徨する宗教性と国民諸文化 ―近代化する日独社会における神話・宗教の諸相	前田良三 編	2024/02	32539-0	3,300	2,600	
■図書館学・アーカイブ■								
近刊		学校図書館サービス論	金沢みどり・雪嶋宏一 監修／ 金沢みどり・望月道浩 編著	2025/10	30403-6	2,970	2,400	
新刊		大宅壮一文庫解体新書Ⅱ 雑誌図書館を活用した研究	阪本博志 編	2025/09	30021-2	3,300	2,600	
		調べ物に役立つ 図書館のデータベース 2025年版	小曾川真貴 著	2025/07	30016-8	2,200	1,800	
		デジタルアーカイブ入門―つかう・つくる・支える	柳与志夫・渡邊英徳 責任編集	2025/06	30015-1	4,620	3,700	
		「メタデータ」のパーспекティブ	池内有為・木村麻衣子 責任編集	2025/06	30306-0	4,950	4,000	
		図書館の日本史 増補改訂版（ライブラリーぶっくす）	新藤透 著	2025/06	30018-2	4,180	3,300	
		学校図書館概論	金沢みどり・雪嶋宏一 監修／ 雪嶋宏一・須永和之 編著	45778	30402-9	2,750	2,200	
		デジタルデータの長期保存・活用―その理論と実践	嘉村哲郎 責任編集	2025/03	30305-3	4,620	3,700	
		デジタル時代のコレクション論（デジタルアーカイブ・ベーシック	中村寛・逢坂裕紀子 責任編集	2024/10	30304-6	3,850	3,100	
		図書館員をめざす人へ 増補改訂版	後藤敏行 著	2024/10	30014-4	2,640	2,100	
2023年								
		物語る仏教絵画―童子・死・聖地	山本陽子 著	2023/10	37011-6	11,000	8,800	
		紙のレンズがひらく古典籍・絵画の世界	江南和幸・佐藤悟・横井孝 （新コディコロジー研究会） 編	2023/11	39036-7	4,950	4,000	
		国宝「三十帖冊子」 修理から見えてきたもの	総本山仁和寺 監修／宇都宮啓吾 編	2023/12	31012-9	13,200	10,600	
		増補改訂 江戸の異性装者たち―セクシュアルマイノリティの理解のために	長島淳子 著	2023/12	32033-3	3,520	2,800	
		古文書研究 第96号	日本古文書学会 編	2023/12	32406-5	4,180	3,300	
		本朝麗藻詳注	柳澤良一 著	2023/11	39030-5	30,800	24,600	
		東アジアの王宮・王都と仏教	堀裕・三上喜孝・吉田欽 編	2023/10	32032-6	13,200	10,600	
		続々 戦国武将逸話集―訳注『常山紀談』巻十六～二十五 （オンデマンド版）	湯浅常山 原著／大津雄一・田口寛 訳注	2023/10	95443-9	2,970	2,400	
		別冊 戦国武将逸話集―訳注『常山紀談』拾遺 巻一～四・ 附録 雨夜燈（オンデマンド版）	湯浅常山 原著／大津雄一・田口寛 訳注	2023/10	95444-6	2,970	2,400	
		江戸時代初期出版年表〔天正十九年～明暦四年〕（オンデマンド版）	岡雅彦・市古夏生・大橋正叔・岡本勝・ 落合博志・雲英末雄・鈴木俊幸・堀川貴司・ 柳沢昌紀・和田恭幸 編	2023/10	80452-9	27,500	22,000	
		重要文化財 東福寺五百羅漢図 修理と研究	石川登志雄 編	2023/10	37010-9	24,200	19,400	
		日本人の読書―古代・中世の学問を語る	佐藤道生 著	2023/09	39033-6	13,200	10,600	
		機巧の文化史 異聞―海を渡った三台のからくり人形	村上和夫 著	2023/08	32031-9	4,950	4,000	
		天地の間に己―一人生きてありと思ふべし―熊沢蕃山「コスモポリテ ス」の地平	大橋健二 著	2023/08	31016-7	4,950	4,000	
		古文書研究 第95号	日本古文書学会 編	2023/07	32405-8	4,180	3,300	
		大谷哲夫先生傘寿記念論集 禅の諸展開	大谷先生傘寿記念論集編集委員会 編	2023/07	31015-0	11,000	8,800	
		野村太郎の狂言入門	野村太郎・杉山和也 著	2023/07	37005-5	3,080	2,500	
		近世戯作の〈近代〉（オンデマンド版） ―継承と断絶の出版文化史	山本和明 著	2023/07	99174-8	9,900	7,900	
		地方史誌から世界史へ―比較地方史誌学の射程	小二田章 編	2023/06	32028-9	8,800	7,000	
		霊峰の文化史―世界遺産・富士山と世界の山岳信仰	秋道智彌 著	2023/05	33005-9	3,520	2,800	
		江戸時代の貸本屋 ―庶民の読書熱、馬琴の創作を支えた書物流通の拠点	長友千代治 著	2023/05	39029-9	5,500	4,400	
		輞川図と蘭亭曲水図―イメージとテキストの交響	野田麻美・静岡県立美術館 編	2023/05	37009-3	10,450	8,400	
		モノと権威の東アジア交流史―鑑真から清盛まで	シャルロッテ・フォン・ヴェアシュア 著	2023/04	32022-7	5,280	4,200	
		深草瑞光寺所蔵 元政上人資料集 ―近世京洛寺院の学問とネットワーク	岡雅彦・落合博志・桑名法晃・長田和也・ 中前正志・那須陽一郎・原雅子・村木敬子 編	2023/03	31013-6	22,000	17,600	
		黄泉の国との契約書―東アジアの買地券	稲田奈津子・王海燕・榊佳子 編著	2023/03	32030-2	4,180	3,300	
		二一世紀の川劇―文化資源化の視点から	江玉 著	2023/03	37007-9	7,480	6,000	
		グレーゾーンと帝国―歴史修正主義を乗り越える生の営み	高綱博文・門間卓也・関智英 編	2023/03	32027-2	5,720	4,600	
		文と書―中国書字思想の探究	亀澤孝幸 著	2023/03	37008-6	8,800	7,000	
		古代日本の儀礼と音楽・芸能―場の論理から奏楽の脈絡を読む	平間充子 著	2023/02	37006-2	11,000	8,800	
		明治・大正・昭和の時代劇メディアと時代考証	大石学・時代考証学会 編	2023/02	32025-8	3,520	2,800	
		日ソ戦争史の研究	日ソ戦争史研究会 編	2023/02	32026-5	13,200	10,600	
		鎌倉時代禅僧喫茶史料集成	舘隆志 著	2023/02	31014-3	14,850	11,900	
		中世醍醐寺と真言密教（オンデマンド版）	藤井雅子 著	2023/01	83170-9	10,780	8,600	
		訂正新版 図説 書誌学―古典籍を学ぶ	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫 編	2023/12	30010-6	3,850	3,100	
		今昔物語集の怪異を読む―巻第二十七「霊鬼」	森正人 著	2023/12	39034-3	5,280	4,200	
		正訳 源氏物語 本文対照 第二冊（オンデマンド版）―末摘花／紅葉	中野幸一 訳	2023/12	89572-5	2,750	2,200	

	正訳 源氏物語 本文対照 第三冊（オンデマンド版）―須磨／明石／	中野幸一 訳	2023/12	89573-2	2,750	2,200	
	中国古典文学に描かれた厠・井戸・簀（オンデマンド版）―民俗学的視	山崎藍 著	2023/12	89200-7	9,900	7,900	
	紫式部伝―平安王朝百年を見つめた生涯	上原作和 著	2023/10	39035-0	5,940	4,800	
	比較文学で読む十一の出会い―交差する東西のまなざし	英米文化学会 編	2023/08	39032-9	3,080	2,500	
	紫式部集の世界	廣田收・横井孝 編	2023/07	39031-2	10,780	8,600	
	日本と東アジアの〈環境文学〉	小峯和明 編	2023/07	39018-3	16,500	13,200	
	中国古典をどう読むか―規範からの逸脱、規範への回帰	下定雅弘 著	2023/06	39027-5	4,180	3,300	
	深掘り！紫式部と源氏物語	中野幸一 著	2023/04	39010-7	2,640	2,100	
	平安文学の饗宴	中野幸一 編	2023/04	39028-2	16,500	13,200	
	杜甫研究年報 第六号	日本杜甫学会 編	2023/04	39446-4	3,300	2,600	
	俊頼髓脳全注釈	家永香織・小野泰央・鹿野しのぶ・ 舘野文昭・福田亮雄 著	2023/03	39025-1	16,500	13,200	
	学習院本「藤袴」（榊原本僚帖）の書誌学的考察	武藤那賀子 著	2023/03	39023-7	16,500	13,200	
	近世後期江戸小説論攷	山本和明 著	2023/02	39022-0	11,000	8,800	
	伝承と現代―民俗学の視点と可能性	加藤秀雄 著	2023/02	33004-2	8,800	7,000	
	源氏物語歌篋	伊東祐子 著	2023/02	39017-6	7,150	5,700	
	王朝物語論考―物語文学の端境期	横溝博 著	2023/02	39024-4	13,200	10,600	
	谷崎潤一郎の世界史―『陰翳礼讃』と20世紀文化交流	西村将洋 著	2023/02	39020-6	5,280	4,200	
	宣教師の日本語文学 研究と目録	郭南燕 編著	2023/02	39026-8	12,100	9,700	
	フェイク・スペクトラム―文学における〈嘘〉の諸相	納富信留・明星聖子 編	2023/01	39015-2	3,520	2,800	
	文学から環境を考える エコクリティシズムガイドブック （オンデマンド版）	小谷一明・巴山岳人・結城正美・壹里真 弓・ 喜納育江 編	2023/01	89080-5	3,080	2,500	
	世界神話伝説大事典（オンデマンド版）	篠田知和基・丸山顯徳 編	2023/10	80036-1	27,500	22,000	
	江戸時代前期出版年表〔万治元年～貞享五年〕	岡 雅彦 編	2023/03	32029-6	35,200	28,200	
	方言地理学の視界	小林隆・大西拓一郎・篠崎晃一 編	2023/05	38003-0	8,800	7,000	
	292 中国学の近代的展開と日中交渉	陶徳民・吾妻重二・永田知之 編	2023/12	32538-3	3,850	3,100	
	291 五代十国―乱世のむこうの「治」	山根直生 編	2023/12	32537-6	3,520	2,800	
	290 女性の力から歴史をみる―柳田国男「妹の力」論の射程	永池健二 編	2023/11	32536-9	3,300	2,600	
	289 海外の日本中世史研究―「日本史」・自国史・外国史の交差	黄霄龍・堀川康史 編	2023/11	32535-2	3,520	2,800	
	288 東アジアの「孝」の文化史 ―前近代の人びとを支えた価値観を読み解く	雋雪艶・黒田彰 編	2023/10	32534-5	3,520	2,800	
	287 書物の時代の宗教―日本近世における神と仏の変遷	岸本覚・曾根原理 編	2023/09	32533-8	3,080	2,500	
	286 近代アジアの文学と翻訳―西洋受容・植民地・日本	波潟剛・西槇偉・林信蔵・藤原まみ 編	2023/08	32532-1	3,300	2,600	
	285 渾沌と革新の明治文化―文学・美術における新旧対立と連続性	井上泰至 編	2023/08	32531-4	3,080	2,500	
	284 近世日本のキリシタンと異文化交流	大橋幸泰 編	2023/07	32530-7	3,080	2,500	
	283 東アジアの後宮	伴瀬明美・稲田奈津子・榊佳子・保科季子 編	2023/06	32529-1	3,520	2,800	
	282 列島の中世地下文書―諏訪・四国山地・肥後	春田直紀 編	2023/05	32528-4	3,300	2,600	
	281 神道の近代―アクチュアリティを問う	伊藤聡・斎藤英喜 編	2023/03	32527-7	3,520	2,800	
	280 都市と宗教の東アジア史	西本昌弘 編	2023/03	32526-0	3,300	2,600	
	279 上海フランス租界への招待―日仏中三か国の文化交流	榎本泰子・森本頼子・藤野志織 編	2023/01	32525-3	3,520	2,800	
	書物学 第24巻 100年くらい前の本づくり―近代日本の製本技術	編集部 編	2023/04	30723-5	2,200	1,800	
	書物学 第23巻 文化財をつなぐひと・もの・わざ ―香雪美術館書画コレクションを支える装演修理の世界	編集部 編	2023/04	30724-2	1,980	1,600	
	書物学 第22巻 禅寺の学問―相国寺・両足院の知の体系	編集部 編	2023/02	30722-8	1,980	1,600	
	ひらかれる公共資料―「デジタル公共文書」という問題提起 （デジタルアーカイブ・ベーシックス）	福島幸宏 責任編集	2023/11	30303-9	3,520	2,800	
	博物館情報学入門【アート・ドキュメンテーション叢書2】（オンデ マンド版）	E Orna & Ch. Pettitt 著／安澤秀一 監 修／水嶋英治 編訳	2023/09	80172-6	3,850	3,100	
	共振するデジタル人文学とデジタルアーカイブ	鈴木親彦 責任編集	2023/07	30302-2	3,520	2,800	
	デジタルアーカイブの新展開	時実象一 著	2023/03	30009-0	2,310	1,800	

杜甫詩論考

Dǔfǔ shī

Lùn kǎo

「詩聖」と称される杜甫。その生涯で多数の詩を残しており、後世に仇兆鰲が編纂した『杜甫集』には一四五七首が収録されている。しかし『杜甫集』成立以降、収録される詩数は増加し、偽作の疑いが濃いものも多くある。本書では、杜甫の作かどうか疑念が持たれている詩について精査し、真作か、偽作か、それとも他詩人の集から誤って入り込んだものなのか、その実情を考察。また、杜甫の詩に用いられる詩語、杜甫の交友関係から生まれた詩などについて、資料を精査し、作品を丁寧に読み直すことで解明された最新の知見を提示する。

緒言

Ⅰ 杜甫詩の真偽

「夜宴左氏莊」札記
「杜鵬行」札記
「虢国夫人」札記
「避地」札記
「哭長孫侍御」札記
「狂歌行、贈四兄」札記
「江南逢李龜年」について
「過洞庭湖」札記
「佚詩」五篇などについて

Ⅱ 杜甫の詩と詩語

「朱門酒肉臭」札記——杜甫「自京赴奉先縣詠懷五百字」
「家書」は届いたか——杜甫「春望」の「家書抵萬金」について
「家中」とは妻のことか——杜甫「縛鵲行」について
「帶」の用法から見た杜甫の詩
杜甫の詩と「鯨魚」
杜甫の詩における「殘生」などの語について
杜甫「蚕穀行」の諸問題
杜甫「客從」と元結「春陵行」——作詩の契機について
杜甫「別董頴」詩について
杜甫と韋諷——杜甫晩年の応酬詩

附編 杜甫はいつから「詩聖」になったか

結語／初出一覧／杜甫詩賦題名索引

後藤秋正

〈著〉

東京教育大学文学部漢文学専攻卒業。同大学院博士課程中国古典文学専修単位取得退学。北海道教育大学教授を経て、名誉教授。博士(文学)。日本杜甫学会理事。唐代文学、特に杜甫の文学を専門とする。著書に『中国中世の哀傷文学』(研文出版、一九九八年)、『唐代の哀傷文学』(研文出版、二〇〇六年)、『食の名言辞典』(東京書籍、一九九九年、分担執筆)、『詩語のイメージ』(唐詩を読むために) (松本肇と共編著、東方書店、二〇〇〇年)、『陶淵明——詩と酒と田園』(東方書店、二〇〇六年、分担執筆)、『杜甫全詩訳注』(講談社学術文庫、二〇一六年、分担執筆)、『杜甫と玄宗皇帝の時代』(勉誠出版、二〇一八年、分担執筆)がある。

國破山河在。城春草木深。
感時花濺淚。恨別鳥驚心。
烽火連三月。家書抵萬金。
白頭搔更短。渾欲不勝簪。

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・488頁
2025年10月刊行
ISBN978-4-585-39054-1 C3098

書名

冊数

杜甫詩論考

後藤秋正〈著〉

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・上製カバー装・488頁
2025年10月刊行
ISBN978-4-585-39054-1 C3098

冊

ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

鏡としての

日本文学

交響する中日古典

アジア遊学 308

張龍妹 [編]

「国文学」を超えて――

日本文学を紐解くと、そこには中国文学の影響が少なからず散見される、それらを比較することは、中国古典の変容のあり方を発見することにつながり、さらに日本文学・文化の特徴を改めて見出すことになる。お互いの国の文学を研究することで、それぞれが響きあい、自国の文学を学ぶことのみでは見いだせなかった新たな魅力、意義を知ることにつながる。日本文学を研究する中国人研究者たち、そして長年中国で日本文学研究・教育に携わった日本人研究者たちによる古典文学の交響。日本文学を「中国」という他者としての視座から再考し、「国文学」の本質を問い直す。

編者プロフィール

張龍妹(ちようりゅうまい)……北京外国語大学北京日本学研究センター元教授。専門は『源氏物語』を中心とする平安仮名文学。主な著書に『源氏物語の救済』(風間書房、二〇〇〇年)、『日本文学 古典篇』(高等教育出版社、二〇〇八年)、『平安朝宮廷才女の散文文体文学書写』(光明日報出版社、二〇二一年)などがある。

目次

「序文」鏡としての日本文学――交響する中日古典 ●張龍妹

第1部 漢詩文と仮名文学

「徳」の文学と「あはれ」の文学 ●張龍妹

回文和歌と「釈教歌」の水脈

――「ながきよのとをのねぶりのみなめざめ」の謎を解く ●渡辺秀夫

「凌雲集序」再論――文体の視点から ●王格格

『扶桑集』部類項目再検討 ●廖榮尧

菅原定義勸学会詩序考 ●李筱颯

『うつほ物語』俊蔭流離譚における「風」――神仙譚の視点から ●趙小青

『源氏物語』大君物語における女性主体の叙述

――「男せざりし人」型の脱構築 ●馬如慧

日本史書における編年体の変容――『栄花物語』を考えるために ●彭湊

「コラム」平安文学における「身」の意識 ●高木和子

第2部 説話文学と軍記物語

仏伝文学と龍の形象――『釈氏源流』を起点に ●小峯和明

仏典の「僧と美女」の物語の中日における伝播と変容 ●趙季玉

説話文学に見る孔子とその弟子たち ●尤芳舟

『今昔物語集』と唐代伝奇における女盗賊の比較 ●邱春泉

東アジアにおける「二十四孝」の資料整理と文字校正 ●趙俊槐

『大倭二十四孝』における継母への孝行の欠如 ●盧俊偉

『太平記』における中国謀士の武人化変容 ●文字博

歴史はいかに語られるか

――朝鮮軍記物における「美人殺し」逸話をめぐって ●覃思遠

「コラム」ミサキについて ●多田一臣

第3部 古典から近代へ

芥川龍之介「支那遊記」に登場する「石黒政吉」とは誰なのか

――南京督軍顧問多賀宗之宅に掛けた「田夫氏の画」の考察をかねて ●曲莉

古典をいかに再生すべきか――川端康成「古都」を読む ●岳遠坤

「国訳漢文大成」の白話小説日本語訳における「両文体」の応用 ●蔡春曉

「伝統演劇」としての越劇の生成――宝塚歌劇との比較を通して ●劉嘉瑤

「コラム」張龍妹先生賛――回想「源氏物語の救済」が世に出た頃 ●神野藤昭夫

編集後記 ●李筱颯

日本文学との出会い――あとがきに代えて ●張龍妹

龍の妹に贈る――あとがきのあとがき ●小峯和明

定価 三、五二〇円(税込)

【本体三、〇〇〇円】

A5判・並製カバー装・三、五二頁

ISBN978-4-585-3254-3 C1390

二〇二五年十月刊行

書名

鏡としての日本文学

交響する日中古典 【アジア遊学308】

張龍妹 [編]

部数

定価 3,520円(税込)・本体3,200円

A5判並製カバー装・352頁
ISBN978-4-585-3254-3 C1390
2025年10月刊行

部

ご送付先ご住所・氏名(通信欄)

勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠出版宛にお申し出ください。
千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 WEBSITE.http://bensei.jp/

FAX●03-5215-9025

外圧の 日本古代文学史

共立女子大学文学部教授
遠藤耕太郎・濱田寛・吉見健夫
聖学院大学教授
四谷学院講師
編

日本文学史は、外国文化の圧力——外圧——という脅威と向き合う心の葛藤の歴史である。

古代日本の人々は、文字（漢字）や仏教・中国思想の外圧、

国家制度や白村江の戦いと壬申の乱といった政治的・軍事的な外圧、

文学作品や唐物と呼ばれる輸入品の外圧など様々なかたちで現れた

外圧としての中国文化に対して、どのように葛藤し、そこから何を創造していったのか。

『万葉集』や『源氏物語』などをはじめとする和歌や散文作品、漢詩文を、

奈良と平安の二つの時代に分けて取り上げ、

国際環境や国際感覚の異なる時代背景のもと、中国文化と格闘し、

換骨奪胎、あるいは克服、憧憬しながら、文学を創造した人々の心の様相を探る。



序言：遠藤耕太郎

総論 古代前期…外圧としての漢字の向き合い…遠藤耕太郎
総論 古代後期…「外圧」から「内なる規範」への展開…濱田寛

第Ⅰ部 古代前期（奈良時代まで）

『古事記』『酒楽の歌』について——宴のうたと場…岩田久美加

唐の外圧と額田王…遠藤耕太郎

柿本人麻呂と『外圧』…高松寿夫

山部赤人による呪性の回復…遠藤耕太郎

『万葉集』遣唐使関連歌考

漢語漢文世界でやまとうたをよむこと…岩田久美加

和銅—神亀年間の国際環境と大伴旅人

香椎浦と松浦川にみる風流心…井実充史

七〜九世紀東アジアの国際環境と日本漢詩…井実充史

第Ⅱ部 古代後期（平安時代）

『土佐日記』における漢詩の表記方法…中島輝實

『伊勢物語』はどう人の心をかたちづくるか

——外圧としての仏教を視点に…咲本英恵

『うつほ物語』の列挙表現——賦の視点から…宮谷聡美

『枕草子』と漢籍——中国文化の（外圧）と宮廷社会の（内圧）の均衡…中田幸司

『源氏物語』の音楽——紅葉賀巻にみえる「外来の音楽の内面化の方法」…岡田ひろみ

桐壺巻における長恨歌引用の意義——桐壺帝の寵愛とその典型化…吉見健夫

平安時代の漢詩文——転換期としての宇多朝とその前後…濱田寛

あとがき…吉見健夫

関連年表

定価 3,300円・本体3,000円
[アジア遊学No.309]
A5判・並製カバー装・256頁
2025年10月刊行
ISBN978-4-585-32555-0 C1390

書名	冊数
外圧の日本古代文学史 遠藤耕太郎・濱田寛・吉見健夫（編）	冊
ご注文／ご送付先住所（通信欄）	

新装版

源氏物語の
話声と表現世界

『源氏物語』は、書かれた言葉によってこの世に存在している。

その言葉は、物語中の随所で、複雑にしてゆたかな意味を生成しているが、同時にそれは、単なる書き言葉ではなく、作中人物の発言あるいは心中の言葉、さらに物語を口頭で伝える人、それを書き取る人、書かれた言葉を書き写す人、編纂する人……等々のさまざまな声が重なりあっている言葉として、異彩を放っているようにおもわれる。それらのさまざまな声Ⅱ「話声」から、『源氏物語』の言葉の魅力と特質とを解き明かしてゆく。

はしがき／凡 例
序章 『源氏物語』の言葉といかに向きあうか

Ⅰ 『源氏物語』の話声

- 第一章 作中人物の話声と〈語り手〉
重なりあう話声の様相
- 第二章 『源氏物語』古注釈における本文区分
「光源氏物語抄」を中心に
- 第三章 『源氏物語』の〈語り〉の本性
作中人物どうしの話声の重なりあい
- 第四章 女房の話声とその機能
「末摘花」巻の大輔命婦の場合
- 第五章 〈語り手〉の待遇意識
貴公子に対する待遇表現

Ⅱ 光源氏をめぐる〈語り〉——第二部とその前後

- 第六章 光源氏をもどく鬚黒——出来損ないの〈色好み〉が拓く物語世界
- 第七章 六条院世界をみつめる明石の君
明石の尼君の待遇表現の分析から
- 第八章 秋好中宮と光源氏——第二部における二人の関係性をめぐって
- 第九章 六条御息所の死霊と光源氏の罪——死霊の語った言葉の分析から
- 第十章 「柏木・女三の宮事件」後の〈語り〉——薫誕生と女房たちの沈黙
- 第十一章 光源氏の最後の「光」——「幻」巻論
- 第十二章 「光源氏の物語」としての「勾宮三帖」
「光隠れたまひにしのち」の世界

Ⅲ 『源氏物語』の話声と〈書く〉こと——物語世界を超えて

- 第十三章 紫式部という物語作家——物語文学と署名
- 第十四章 物語作家と書写行為——『紫式部日記』の示唆するもの
- 第十五章 『源氏物語』と書写行為——書写者の話声
- 第十六章 『源氏物語』と唐代伝奇——物語伝承の仮構の方法
- 第十七章 『源氏物語』のヘテロフォニー——重なりあう話声と〈読む〉こと

初出一覧／あとがき

索引——Ⅰ事項・人名・書名等索引／Ⅱ『源氏物語』作中人物名・巻名等索引

陣野英則〈著〉

定価 11,000円・本体10,000円
A5判・並製カバー装・400頁
2025年10月刊行
ISBN978-4-585-39055-8 C3091

書 名	冊 数
新装版 源氏物語の話声と表現世界 陣野英則〈著〉	定価 11,000円・本体10,000円 A5判・並製カバー装・400頁 2025年10月刊行 ISBN978-4-585-39055-8 C3091
ご氏名／ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社 勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

赤澤真理・加藤悠希・米澤貴紀〔編〕

アジア遊学
306

建築とオリジナル

創造・継承・解釈

〔目次〕

カラー口絵

巻頭言 巻頭言 建築のゆれうごく価値

「オリジナル」をどう捉えるか◎加藤悠希

第一部 かたちに宿る意味

中世興福寺の伽藍復興にみる建築の規範と継承◎海野聡
中世の神社本殿にみる造形の伝播と獨創性◎是澤紀子
神社本殿の形式分類と模倣の論理◎加藤悠希
無著道忠の著作にみる江戸時代中期における

寛政度内裏造営における復古の視座◎加藤悠希

吉田五十八の「平安調」へのまなざし◎大井隆弘

茶室とオリジナル◎米澤貴紀

古典主義における理想的原型の追求◎横手義洋

第二部 場のしつらえと再現

習合神道儀礼の場の構造◎米澤貴紀

神道灌頂の道場と設え——三輪流神道にまつわる絵画を中心に◎郷司泰仁
王朝物語絵にみる江戸後期における打出の復古

「コラム」 女性の空間を暗示する女房装束◎赤澤真理

「コラム」 平安朝服飾と建築、空間、場——十世紀の宮廷社会◎伊永陽子

「コラム」 『源氏物語』の再現展示をめぐる◎赤澤真理

第三部 保存をめぐる模索

民家等の修理や復原における

「コラム」 古材保存材料と形式保存意匠の対立◎坂井慎介

「コラム」 建築遺産のオリジナルとオーセンティシティ

「コラム」 文化財の塗装工事における

「オリジナル」の価値とその保全◎北脇翔平

彩色のオリジナルと復原

——正祖年間の八達門扁額の丹青復原に関する研究◎金碩顯・具本能

第四部 受け継ぐことの論理

城郭建築のオリジナルと復元◎稲垣智也

「コラム」 中国の文化財制度におけるオリジナルの扱いについて◎李暉

建築の生命倫理について考える——保存と再生の事例から◎野村俊一

座談会 建築は変化してもよいのか、オリジナルのままがよいのか

◎赤澤真理・加藤悠希・米澤貴紀・伏見唯

後記◎赤澤真理・加藤悠希・米澤貴紀

定価 4,180 円
(本体 3,800 円)

A5判並製カバー装
416頁+カラー口絵8頁
ISBN 978-4-585-32552-9 C1352
2025年8月刊行

書 名	部 数
建築とオリジナル 創造・継承・解釈〔アジア遊学306〕 赤澤真理・加藤悠希・米澤貴紀〔編〕	部
ご注文先 (氏名・住所・電話番号)	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

Edoardo Gerlini / 河野貴美子 [編]

アジア遊学 305

近現代日本を生きる テキスト遺産

モノ×営為×世界

近年、文化的アイデンティティを問う議論が世界的に展開している。その議論において頻繁に活用されるのは、「遺産」という概念である。書記資料、文章、文字など、いわゆる「テキスト」という文化的生産物は、近代および現代においてどのように変容し、「遺産」となっていたのか。その働きと諸相は、どのように把握することができるのか。

さまざまな姿を変える
「モノ」としてのテキストのありかた、また、それにまつわる継承・選択・改編・再生等の多様で複雑な「営為」、そして、「テキスト」を取り巻く「世界」への広がりという三つの視点を織り交ぜること、過去から現在まで営々と積み重ねられてきた「テキスト」と人間との関係性を問い直し、人文学を起点とした新たな世界認識の可能性を示す、画期的成果。

【編者プロフィール】

Edoardo Gerlini (エドアルド・ジェルリーニ)
ヴェネツィア・カフオスカリ大学アジア・北アフリカ学科研究員(兼、早稲田大学総合人文科学センター・角田柳作記念国際日本学研究所招聘研究員)。専門は日本中古文(特に和歌と漢詩)、比較文学。著書『Heian Court Poetry as World Literature: From the Point of View of Early Italian Poetry』(Florence: Firenze University Press, 2014) などがある。

河野貴美子 (こうの きみこ)
早稲田大学文学学術院教授。専門は和漢古文獻研究、和漢比較文学。主な著書に『日本書紀と中国の伝承』(勉誠社、一九九六年)、『日本「文学史」全三冊』(共編著、勉誠出版、二〇一五―二〇一九年)、『古典は遺産か?』(日本文学におけるテキスト遺産の利用と再創造) (共編著、アジア遊学 261号、勉誠社、二〇二一年) などがある。

【目次】

序言◎Edoardo Gerlini / 河野貴美子 緒論 常に現在を生きたるテキスト遺産◎Edoardo Gerlini	I 「モノ」としてのテキスト遺産 明治期博物館の図書収集と管理 ——「列品」と「事務参考図書」の間◎田良島哲 「古筆家」の近代——古筆文化を支えた人々◎佐々木孝浩 書跡文化のこれまでとこれから ——テキスト遺産の視点から考えるその意義◎河野貴美子 「コラム」植物画の展示と文学のなかの植物◎寺田鮎美 「コラム」「読まれない」テキスト遺産◎新美哲彦 「コラム」デジタル化に伴うテキスト遺産の変容 ——本文研究という営為と研究書を例として◎舟見一哉
II 営為としてのテキスト遺産 〈期待の地平と文学遺産〉 ——「脱構築」に始まる長明「方丈の庵」をめぐる◎荒木浩 文献に記された民俗について ——民俗研究におけるテキスト遺産活用のために◎加藤秀雄 テキスト遺産としての令和度大賞会屏風・屏風歌・風俗歌◎Edward Kamens 桜咲く東福山——歌枕の誕生と変容、そして記憶の再生◎渡邊裕美子 テキスト遺産としての日本漢詩 ——戦後漢詩専門雑誌「雅友」を中心に◎Matthew Freligh 「コラム」平成の日本漢詩——水出和明「韻主義」を例として◎日本嘉孝 「コラム」テキスト遺産言説としての勅撰三集序◎宋略 「特別寄稿」源氏物語の正本とカノン形成◎兵藤裕己	III 日本のテキスト遺産と世界 近代国文学の示す「古典」と「世界」の文学◎陣野英則 「英語の世紀」に言葉を継承するということ ——水村美苗 私人小説 From left to right を手がかりとして◎河野至恩 「コラム」桜井の別れ」というテキスト遺産と「桜井駅跡」という史跡◎松田陽 岡本太郎の「縄文土器論」再考◎山本聡美

定価 **3,300 円**
(本体 3,000 円)
A5判並製カバー装・240頁
ISBN 978-4-585-32551-2 C1395
2025年7月刊行

書 名	部 数
近現代日本を生きるテキスト遺産 モノ×営為×世界【アジア遊学305】 Edoardo GERLINI / 河野貴美子 [編]	定価3,300円(本体3,000円) A5判並製カバー装・240頁 ISBN978-4-585-32551-2 C1395 2025年7月刊行
ご送付先 (氏名・住所・電話番号)	

社寺建築を

知るための

用語集

日本の歴史的建築を考える

各地に残された日本の木造建築の構造を理解するための絶好の入門書。

日本の社寺建築は三〇〇年の歴史を持ち、各時代に建てられた様々な建造物が数多く残されている。

それらは建てられた時代や所在する地域の特徴を示しており、日本の歴史・文化を知るための重要な資料となっている。

しかし、これらの木造建築に関わる用語は、単にその数が極めて多いだけではなく、時代や建造物の種類によって

名称・解釈が異なることもあり、研究者ですらとまどう場面も少なくない。

伝統的な木造建築の歴史研究および文化財建造物の保存修理を長年リードしてきた著者が、

日本建築の歴史を考えるうえで重要な用語を豊富な図版資料と共に解説。

カラー口絵
はじめに

第一章 仏堂

第二章 寺院の礼拝空間

第三章 神社建築

第四章 屋根の基本形式

第五章 門

第六章 塔

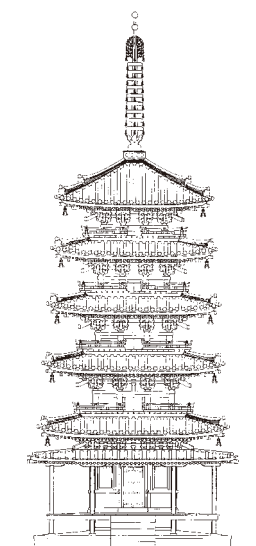
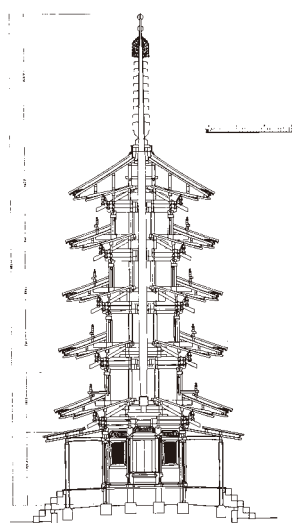
第七章 基礎・軸部

第八章 組物

第九章 軒・架構・天井

第十章 小屋組と野地

第十一章 妻飾



濱島正士

〈著〉

昭和十一年、大阪府生まれ。神戸大学工学部建築学科卒業。京都府教育庁技師、文化庁文化財調査官として文化財建造物の修理・調査に従事。国立歴史民俗博物館教授、別府大学教授を経て、(公財)文化財建造物保存技術協会理事長、会長を歴任。現在、国立歴史民俗博物館名誉教授、(公財)文化財建造物保存技術協会顧問、工学博士。専門は、日本建築(社寺建築史)。主な著書に「日本仏塔集成」(中央公論美術出版、平成十三年)など多数。

文化財建造物保存技術協会〈編集協力〉

定価4,180円・本体3,800円

B5判・並製カバー装
200頁(+カラー4頁)

2025年6月刊行

ISBN978-4-585-35003-3 C0052

書名

社寺建築を知るための用語集

日本の歴史的建築を考える

濱島正士〈著〉文化財建造物保存技術協会〈編集協力〉

冊数

定価4,180円・本体3,800円

B5判・並製カバー装
200頁(+カラー4頁)

2025年6月刊行

ISBN978-4-585-35003-3 C0052

冊

ご送付先ご住所(通信欄)

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

小山順子〈著〉

(こやま・じゅんこ)京都女子大学教授。専門は古典和歌。主な著書・論文に『藤原良経』(笠間書院、二〇一二年)、『和歌のアルバム―藤原俊成・詠む・編む・変える』(平凡社、二〇一七年)、『新古今和歌集』における藤原俊成(『中世文学』67、二〇一二年)、『日本文学と鸚鵡―歌論用語「鸚鵡返し」をめぐる』(河添房江・皆川雅樹編『唐物』とは何か―舶載品をめぐる文化形成と交流)アジア遊学275、勉誠社、二〇二二年)などがある。

本歌取り 表現論考

古典たる古歌を自身の歌に摂取し、
新たな和歌を創造する技法、本歌取り。

藤原定家が『近代秀歌』『詠歌大概』において
準則を定めたこの新古今時代を特徴づける和歌表現は、
如何なる歴史的展開の中で萌芽し、展開、定着していったのか。
作者の意図と読者の読解との連関を支える教養・知的基盤の共同性に着目。
既存の作品から表現や発想を借り、自身のものとして再生する営為の展開を、
平安中期のブレ本歌取りのあり方、
一大歌壇を成した藤原良経の詠作における漢詩文摂取、
新古今時代の新たな和歌表現のあり方を示した藤原俊成の物語摂取、
そして、新古今歌人たちが模索した諸種の本歌取り表現のなかにたどり、
本歌取り成立の歴史的意義を明らかにする。

古きをこひねがふにとりて、
昔の歌の詞を改めずよみするたるを、
即ち本歌とすと申すなり。(『近代秀歌』)



定価 12,100 円・本体11,000円
A5判・上製カバー装・528頁
2025年3月刊行
ISBN978-4-585-39050-3 C3095

例言

序章

本歌取り成立前史

第一部

第一章

佳句取りと句題和歌

第二章

『古今集』時代の〈本歌取り〉

第三章

贈答歌と本歌取り―返歌形式の歌合・題詠

第四章

『後撰集』時代の〈本歌取り〉

第五章

引歌と本歌取り

第二部

漢詩文摂取

第一章

藤原良経の初学期

第二章

藤原良経『六百番歌合』恋歌における漢詩文摂取

第三章

藤原良経『西洞隠士百首』の寓意と政治性

補説一

「時失へる」の持つ重み

第四章

藤原良経『正治初度百首』の漢詩文摂取

補説二

「人住まぬ不破の閑屋の」小考

第三部

物語摂取

第一章

藤原俊成自讃歌「夕されば」考

第二章

『伊勢物語』と藤原俊成の歌論・実作

第三章

「源氏見ざる歌詠みは遺恨の事也」考

第四章

―歌語「草の原」と物語的文脈―

第四部

新古今の表現と本歌取り

第一章

本歌取りと時間―藤原良経の建久期の詠作から

第二章

本歌の凝縮表現―『後京極殿御自歌合』を中心に

第三章

本歌の否定表現―藤原良経『正治初度百首』を中心に

第四章

「最勝四天王院障子和歌」の歌枕表現

第五章

「主ある詞」と本歌取り

終章

あとがき・初出一覧・索引

書 名	冊数
本歌取り表現論考 小山順子〈著〉	冊
ご送付先ご住所（通信欄）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX ●03-5215-9025

井上泰〔著〕

《絵語り》の日本中世

絵画に潜む表象主体の行為を探る

絵巻・物語絵などの絵画は、単に画題を絵で「伝達」するメディアではない。そこには制作にかかわる主体の画題への「解釈——表現」行為過程が介在している。その表象行為をめぐる、日本中世にはどのような特質が見られるのか。

中世に制作された『信貴山縁起』、極楽寺蔵『六道絵』、『源氏物語絵詞』などを中心に、鑑賞者の解釈を誘発する、その表象の編成と仕組みを分析する。また、教育の場では絵画をどのように扱うことができるのか。

実際の教育現場に携わった著者ならではの視点から、定番教材である『竹取物語』や『徒然草』を題材に、古典学習の拡充に向けた絵画の有効的な活用を提案する。



〔著者プロフィール〕

井上泰（いのうえ やすし）

福山大学大学院教育センター准教授。専門は、国語教科内容学で主に日本文学。主な論文に「国語科における言語文化学習をどうするか——中学三年生 芥川龍之介『蜘蛛の糸』の授業実践から考える」（『日本文学』72巻2号、日本文学協会、二〇一三年一月）、「兵庫県極楽寺蔵『六道絵』の《絵語り》」（『国文学』第200号、広島大学国語国文学会、二〇一八年十二月）などがある。

図版130点超
掲載！

定価 9,900 円
（本体 9,000 円）

A5判上製カバー装・352頁
ISBN 978-4-585-37013-0 C3071
2025年3月刊行

〔目次〕

序 章 研究の目的と方法

第一節 研究の目的 第二節 研究の方法

第一章 《絵語り》論序説

第一節 問題の所在／第二節 鑑賞主義的な解釈／第三節 画面構成による絵画の語り／第四節 物語とは直接関係のない絵画表現／第五節 隠喩の文脈／第六節 主題の複層性／第七節 まとめ

第二章 説話画の《絵語り》

第一節 問題の所在／第二節 「信貴山縁起」尼公巻をめぐる／第三節 和歌と名所絵／第四節 宿をとる尼公／第五節 《絵語り》の位相——観念と実像／第六節 まとめ

第三章 仏教説話画の《絵語り》

第一節 問題の所在／第二節 十王絵相の検討／第三節 六道絵相の検討／第四節 極楽寺蔵『六道絵』の《絵語り》／第五節 まとめ

第四章 物語絵の《絵語り》

第一節 問題の所在／第二節 《絵語り》と景空間／第三節 《絵語り》と時間／第四節 《絵語り》と心情（人）／第五節 《絵語り》と意味／第六節 まとめ

第五章 教材としての絵画（一）

第一節 問題の所在／第二節 教科書における絵画資料の使用目的／第三節 指導書における絵画資料の使用目的とその検討／第四節 絵画資料の有効的な活用の提案／第五節 中学校の古典学習におけるまとめ／第六節 「源氏物語絵巻」御法を用いた活動／第七節 「源氏物語」御法巻の学習の狙い／第八節 絵画資料の有効的な活用の提案／第九節 高等学校の古典学習におけるまとめ／第十節 教材としての絵画

第六章 教材としての絵画（二）

——絵画テキストを活用した実践事例

第一節 「竹取物語」の挿絵を用いた活動／第二節 活動を通して得られた学習の効果／第三節 「竹取物語絵」学習のまとめ／第四節 「徒然草絵」を用いた活動／第五節 絵画テキストの使用目的／第六節 単元について／第七節 授業構成／第八節 学習者の反応／第九節 「徒然草絵」学習のまとめ

結 章 研究の総括

第一節 本研究の概要／第二節 日本中世の《絵語り》の諸相／第三節 日本中世の《絵語り》の特質
あとがき
初出一覧／参考文献／索引（事項／人名／書名）

書 名	部 数
《絵語り》の日本中世史 井上泰〔著〕	部
定価9,900円(本体9,000円) A5判上製カバー装・352頁 ISBN978-4-585-37013-0 C3071 2025年3月刊行	
ご送付先（氏名・住所・電話番号）	

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

中国の名作をどう読むか、

真の主題を見極める

元稹論云山東人李白亦以文奇取稱時人謂之李杜予觀其壯浪縱恣
振去拘束模寫物象及樂府歌詩誠不羈肩於子美矣至若鋪陳終始排
比聲韻大或千言次猶數百詞氣豪邁而風調清
屬對律切而脫棄八近則李尚不能歷其藩
翰況堂與乎自後屬文者以稹論為
是甫有文集六十卷



下定雅弘「著」

作者の思考と心情にせまる

中国の古典には、王羲之「蘭亭序」、
杜甫「感時花濺淚、恨別鳥驚心」、沈既濟「枕中記」、
李商隱「夕陽無限好、只是近黃昏」など
名作・名句と言われながら、
その主題や解釈に議論があるものが少なくない。
それら未解決の名作を取り上げ、
あくまで原文に即しつつ、
一字一句の典拠や作品の背景を究明し、
あまたの議論に終止符を打つ。

著者プロフィール

(しもさだ まさひろ) 岡山大学名誉教授。文学博士。日本杜甫学会顧問(前会長)。
六朝及び唐代の詩人、陶淵明・杜甫・白楽天・柳宗元等を専門とする。著書に『白
楽天の愉悅―生きる叡智の輝き』(勉誠出版、二〇〇六年)、『柳宗元―逆境を生
きぬいた美しき魂』(勉誠出版、二〇〇九年)、『白楽天』角川ソフィア文庫、二〇一
〇年)、『長恨歌―楊貴妃の魅力と魔力』(勉誠出版、二〇一二年)、『柳宗元詩選』岩
波文庫、二〇一二年)、『陶淵明と白楽天―生きる喜びを詠い続けた詩人』角川選書、
二〇二二年)、『中唐文学研究論集』(中華書局、二〇一四年)、『精選漢詩集』生
きる喜びの歌』(ちくま新書、二〇一四年)、『白居易と柳宗元―混沌の世に生の讃歌を』
(岩波現代全書、二〇一五年)、『寂厳和上漢詩集 松石余稿詠注』(宝島寺古文書研
究会読解・下定雅弘監修、宝嶋寺、二〇一七年)、『中国古典をどう読むか―規範
からの逸脱、規範への回帰』(勉誠社、二〇一三年)、などがある。

目次

はじめに

- 第一章 王羲之「蘭亭序」――死への恐れと悲しみ
 - 第二章 陶淵明「飲酒二十首」――官界から田園へのはざま
 - 第三章 柳宗元の愚溪と謝靈運の始寧――わが園林への愛
 - 第四章 杜甫「春望」の「感時花濺淚、恨別鳥驚心」
――「花」も「鳥」も詩人と一つ
 - 第五章 沈既濟「枕中記」――幸せの鍵は欲をおさえることに
補論 李公佐「南柯太守伝」――人生は不可知の何者かに操られている
 - 第六章 「杜子春伝」――いかなる情よりも深い母の愛
 - 第七章 白居易「琵琶引」――自分と女性と音楽への愛の結晶
 - 第八章 白居易「燕子樓三首」――主人を亡くした妓女の悲哀への共鳴
 - 第九章 李商隱「夕陽無限好、只是近黃昏」――「只是はしかし」か「ひたすら」か
 - 第十章 李商隱「曲江」の「傷春」――時代の惨劇に関われない痛苦
 - 第十一章 蘇東坡の酒――生涯のこよなき伴侶
- あとがき
参考文献／初出一覧

定価六、六〇〇円(税込)
本体六、〇〇〇円
A5判並製カバー装・五九二頁
二〇二五年五月刊行
ISBN978-4-585-39048-0 C1098

▶▶好評を博した

『中国古典をどう読むか
――規範からの逸脱、規範への回帰』の
姉妹版です。

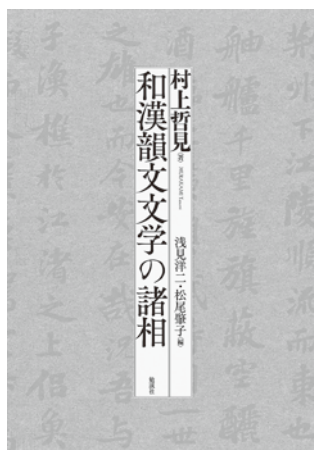
書名	部数
中国の名作をどう読むか 真の主題を見極める 下定雅弘(著)	部
ご送付先ご住所(通信欄)	

定価6,600円(本体価格6,000円)
A5判・並製カバー装・592頁
2025年5月刊行
ISBN978-4-585-39048-0 C1098

村上哲見〈著〉

（むらかみ・てつみ）一九三〇年、中国大連に生まれる。奈良女子大学教授、東北大学教授などを歴任。東北大学名誉教授。文学博士（京都大学）。日本学士院賞・恩賜賞受賞、瑞宝中綬章受章。主な著書に『宋詞研究 唐五代北宋篇』（創文社、一九七六年）『宋詞研究 南宋篇』（創文社、二〇〇六年）『中国文人論（汲古書院一九九四年）』など、二〇二二年三月逝去。

和漢韻文文学の諸相



定価 13,200円・本体12,000円
A5判・上製カバー装・384頁
2025年2月刊行
ISBN978-4-585-39049-7 C3090

浅見洋二・松尾肇子〈編〉

（あさみ・ようじ）大阪大学大学院人文科学研究科教授。文学博士（京都大学）。著書に『中国宋代文学の圏域——草稿と言論統制』（研文出版、二〇一九年）、『陸游（新釈漢文大系詩人編12）』（明治書院、二〇二二年）など。
（まつお・はつこ）立命館大学白川静記念東洋文学文化研究所客員研究員。文学博士（奈良女子大学）。著書に『詞論の成立と発展』（東方書店、二〇〇八年）、『雅詞的受容』（萬巻樓、二〇一三年）など。

唐宋期を中心とする中国文学およびその影響下で生み出された日本漢文学について、多くの注目すべき研究成果を発表してきた村上哲見。これまで単行本未収録であった二十二編の論考を、
「中国詞論」「中国文人論」「日本漢詩論」に分類して収載。
幅広い知見と深い読解と考察により
研究を領導してきた泰斗による珠玉の論文集。

まえがき……浅見洋二

第一部 中国詞論

- 1 中国韻文史序論簡説
- 2 中国の韻文学諸様式の相互関係について
- 3 花間詞の声律
- 4 燭背・灯背ということ——読詞瑣記
- 5 李煜の詞におもうこと
- 6 南宋の文人たち——姜白石をめぐって
- 7 思惟の人と行動の人——朱子と辛稼軒の交遊
- 8 『詞律』の著者、万樹について
- 9 毛沢東主席の詞

第二部 中国文人論

- 10 白居易と杭州・蘇州
- 11 白居易の杭州赴任をめぐって
- 12 東坡詩札記——「鄭州西門」について
- 13 詩にみる蘇東坡の書論
- 14 蘇東坡と陸放翁
- 15 皇帝と文房趣味

第三部 日本漢詩論

- 16 『懷風藻』の韻文論的考察
 - 17 『三体詩』の抄物
 - 18 許六『和訓三体詩』をめぐって
 - 19 『唐詩選』と嵩山房——江戸時代漢籍出版の一側面
 - 20 江戸時代の漢籍出版
 - 21 江戸時代出版雑誌
 - 22 漢詩の魅力——夏目漱石と漢詩
- 【座談会】
先学を語る——村上哲見先生
三浦國雄・川合康三・松尾肇子
浅見洋二・萩原正樹・興膳宏
略歴／著作目録
あとがき……松尾肇子

書名

和漢韻文文学の諸相

村上哲見〈著〉浅見洋二・松尾肇子〈編〉

定価 13,200円・本体12,000円
A5判・上製カバー装・384頁
2025年2月刊行
ISBN978-4-585-39049-7 C3090

冊数

冊

ご送付先ご住所（通信欄）

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025

清少納言伝

中宮定子讃仰と鎮魂の生涯

上原作和 [著]

謎多き才女の実像に迫る本格評伝

清少納言はなぜ『枕草子』を書いたのか。

中宮定子への忠誠心とはいかなるものだったのか。

紫式部とは仲が悪かったのか。

多彩な史料・文献を駆使して、幼少時代、恋愛と結婚、宮廷生活、

長徳の変の伊周と高階道順の逃亡への関与、晩年の隠棲地のほか、

『枕草子』の成立と享受について14の新見解を提示し、

その波乱に満ちた生涯と人物像に迫る。

和歌・漢文日記等に読みやすい現代語訳、

専門用語に注記を付した。

14の新見解

・紫式部との関係は険悪というほどではなかったことを確認

・清少納言の家は、同母兄清原致信の住む「六角福小路」にあったと特定

・長徳の変の藤原伊周と高階道順の逃亡に関与していると推定

・多情多恨・奔放な異性関係を持っていたことを指摘……など。

◎著者プロフィール

上原作和（うえはら・さくかず）

一九六二年長野県佐久市生まれ。大東文化大学大学院博士課程単位取得退学。博士（文学）、名古屋大学。現在、桃源文庫理事。明治大学法学部兼任講師。主な研究テーマは文献史学、日本琴學史、物語文学。主著に『光源氏物語の思想史の変貌——《琴》のゆくへ——』（有精堂出版、一九九四年）、『光源氏物語學藝史——右書左琴の思想——』（翰林書房、二〇〇六年）、『光源氏物語傳來史』（武蔵野書院、二〇一一年）、『紫式部伝——平安王朝百年を見つめた生涯——』（勉誠社、二〇一三年）、共編著に『人物で読む源氏物語／全二〇巻』（勉誠出版、二〇〇五―二〇〇六年）、『完訳太平記／全四巻』（勉誠出版、二〇〇七年）、『テーマで読む源氏物語——一三巻——』（勉誠出版、二〇〇八年）、『日本琴學史』（勉誠出版、二〇一六年）、『古典文学の常識を疑う』（勉誠出版、二〇一七年）、『古典文学の常識を疑うⅡ』（勉誠出版、二〇一九年）などがある。創設40周年記念中古文学会賞（二〇〇六年）、全国大学国語国文学会賞（二〇〇七年）。

◎目次

はじめに

第一章 なぜ清少納言は『枕草子』を書いたのか

第二章 『枕草子』受容の前近代と近代

第三章 清少納言前史

第四章 中関白家の栄華と長徳の変

第五章 清少納言の家系

第六章 枇杷殿時代——紫式部と対峙する

第七章 清少納言の同母兄・清原致信暗殺事件

第八章 『無名草子』の清少納言伝承と伝能因所持本の成立

第九章 清少納言伝における（つきのわ）

「コラム」 在原業平遠近宮と武蔵野の古典文学

第十章 清少納言の末裔——「小馬がさうし」の読者圏

附篇一 『枕草子絵巻』の世界

附篇二 冷泉家本『清少納言集』訳注

自跋

附録

『清少納言伝』を読むためのふたつの覚書

『清少納言伝』を読むための人物誌

女房一覧

枕草子年表

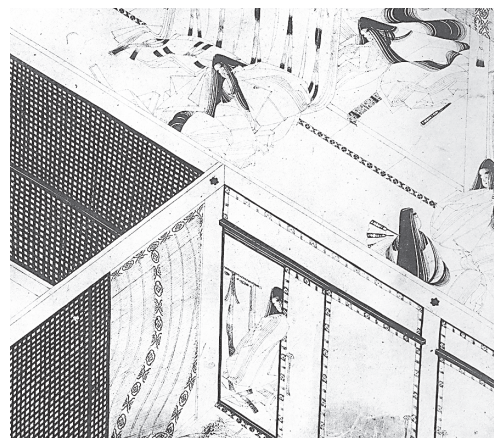
定価五、九四〇円

（本体五、四〇〇円）

二〇二四年十一月刊行

A5判並製カバー装・四二四頁

ISBN978-4-585-39046-6 C1095



書名	部数
清少納言伝 中宮定子讃仰と鎮魂の生涯 上原作和 [著]	部
ご送付先ご住所・氏名（通信欄）	

定価 5,940 円（本体 5,400 円）

A5判・並製カバー装・424頁
ISBN978-4-585-39046-6 C1095
2024年10月刊行

株式会社勉誠社

※上記注文書にご記入の上、お近くの書店あるいは勉誠社宛にお申し出ください。
東京都千代田区神田三崎町2-18-4 TEL.03-5215-9021 <https://bensei.jp/>

FAX●03-5215-9025